

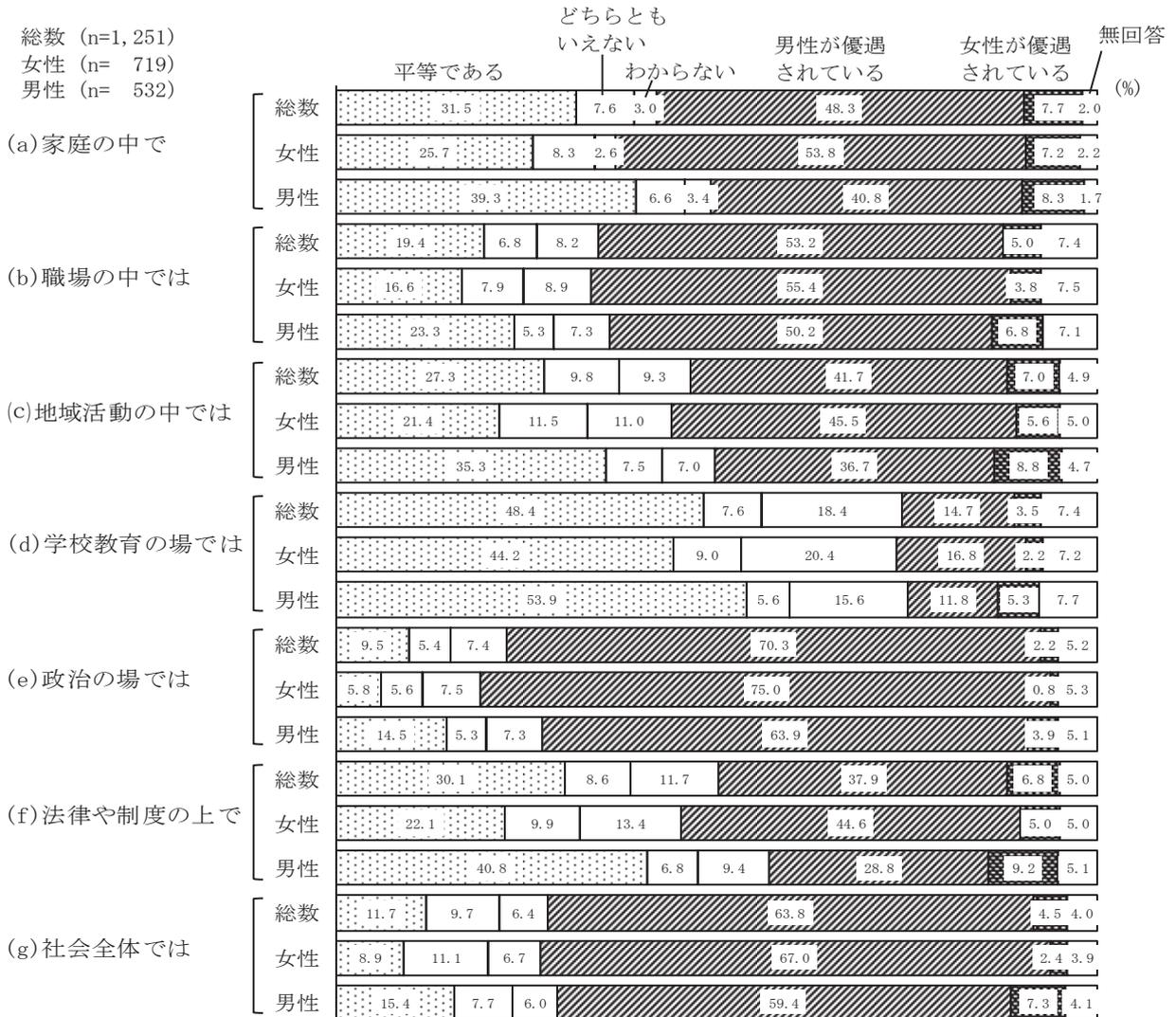
I 男女の地位の平等

1 男女平等についての現在の状況

問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (a)～(g)の各分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

全体では「平等である」と考える人が、「(d)学校教育の場」(48.4%)、「(a)家庭の中」(31.5%)、「(f)法律や制度の上」(30.1%)、「(c)地域活動の中」(27.3%)の順に多くなっている。「平等である」と考える人が最も少ないのは「政治の場」(9.5%)である。
 女性では、「(e)政治の場」(5.8%)、「(g)社会全体」(8.9%)で、「平等である」が1割未満になっており、また、すべての項目で男性よりも「平等である」と考える人が少なくなっている。
 男性では、「(e)政治の場」(14.5%)、「(g)社会全体」(15.4%)では1割台となっているが、すべての項目で女性よりも、「平等である」と考える人が多くなっている。特に差が大きいのは「(f)法律や制度の上」(40.8%)で、女性を18.7ポイント上回っている。

図1-1 男女平等についての現在の状況 項目別一覧(性別)



※『男性が優遇されている』は、調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。
 『女性が優遇されている』は、調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。以降の頁も同様。

男女平等についての現在の状況

(a) 家庭の中では

【性別】

「平等である」は男性の方が13.6ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が13ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」が能登中部と石川中央で最も多く（27.2%）、能登北部（13.9%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、南加賀（56.7%）、石川中央（53.7%）、能登中部（53.1%）で、半数を超えている。

男性では、「平等である」が、能登中部（40.8%）で最も多く、『男性が優遇されている』が能登北部（47.2%）で最も少なくなっている。

【年代別】

女性では、「平等である」が20代（42.0%）で最も多くなったが、60歳以上では19.6%にとどまり、年代が高くなるにつれ少なくなる傾向がある。また『男性が優遇されている』は20代（30.0%）で最も少なく、『女性が優遇されている』は20代（18.0%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が40代（26.3%）で最も少なく3割を切っている。『男性が優遇されている』は40代（53.9%）で5割を超えている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚（30.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（57.9%）で5割を超えている。

男性では、「平等である」が有配偶者（40.8%）で多く、『男性が優遇されている』は離死別（48.6%）で多くなっている。

【本人の職業別】

「平等である」は、女性、男性ともに勤め人（女性29.7%、男性43.3%）で最も多い。

また『男性が優遇されている』は、女性、男性ともに自営業・家族従業（女性64.9%、男性46.8%）で最も多くなっている。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児のいる人（32.0%）と学生の子がいる人（34.8%）で3割を超えた。『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（62.2%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」は幼児のいる人（44.9%）と社会人の子がいる人（42.1%）で4割を超えた。『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（54.8%）で半数を超えている。

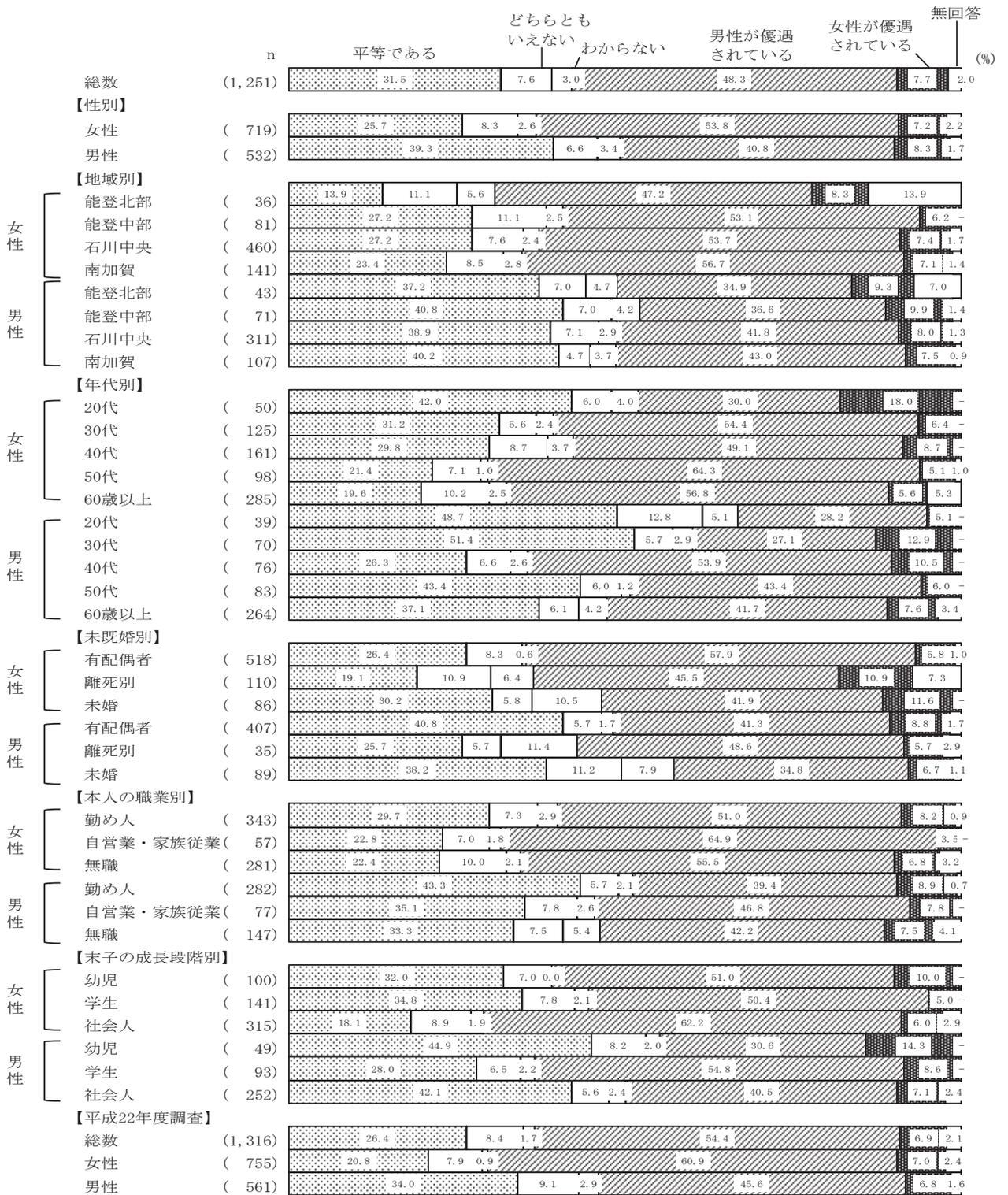
【平成22年度調査との比較】

女性では、「平等である」が、4.9ポイント増加し、『男性が優遇されている』は、7.1ポイント減少した。

男性では、「平等である」が、5.3ポイント増加し、『男性が優遇されている』は、4.8ポイントの減少となった。

図1-2 男女平等についての現在の状況 (a) 家庭の中では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成22年度調査結果)



男女平等についての現在の状況

(b) 職場の中では

【性別】

「平等である」は男性の方が6.7ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が5.2ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」が、能登北部（25.0%）で最も多く、南加賀（14.2%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、石川中央（57.4%）、南加賀（56.0%）、能登中部（51.9%）で半数を超えている。

男性では、「平等である」が、能登北部（30.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は石川中央（52.4%）、南加賀（50.5%）で5割を超えている。

【年代別】

女性では、「平等である」が20代（32.0%）で最も多く、60歳以上では9.8%と最も少ない。『男性が優遇されている』は、50代（62.2%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」が50代（32.5%）で最も多く、『男性が優遇されている』は30代（54.3%）で最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚（30.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（58.1%）、離死別（50.0%）で半数を超えている。

男性では、「平等である」が未婚（28.1%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（51.1%）、離死別（51.4%）で5割を超えている。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」が勤め人（25.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』は自営業・家族従業（64.9%）が最も多くなった。

男性でも、「平等である」が最も多くなったのは勤め人（32.6%）で、『男性が優遇されている』が最も多いのは、自営業・家族従業（54.5%）となっている。

【未子の成長段階別】

女性では、「平等である」が学生の子がいる人（22.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』は幼児のいる人（64.0%）で最も多くなった。

男性でも、「平等である」は学生の子がいる人（31.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は幼児のいる人（53.1%）で最も多くなった。

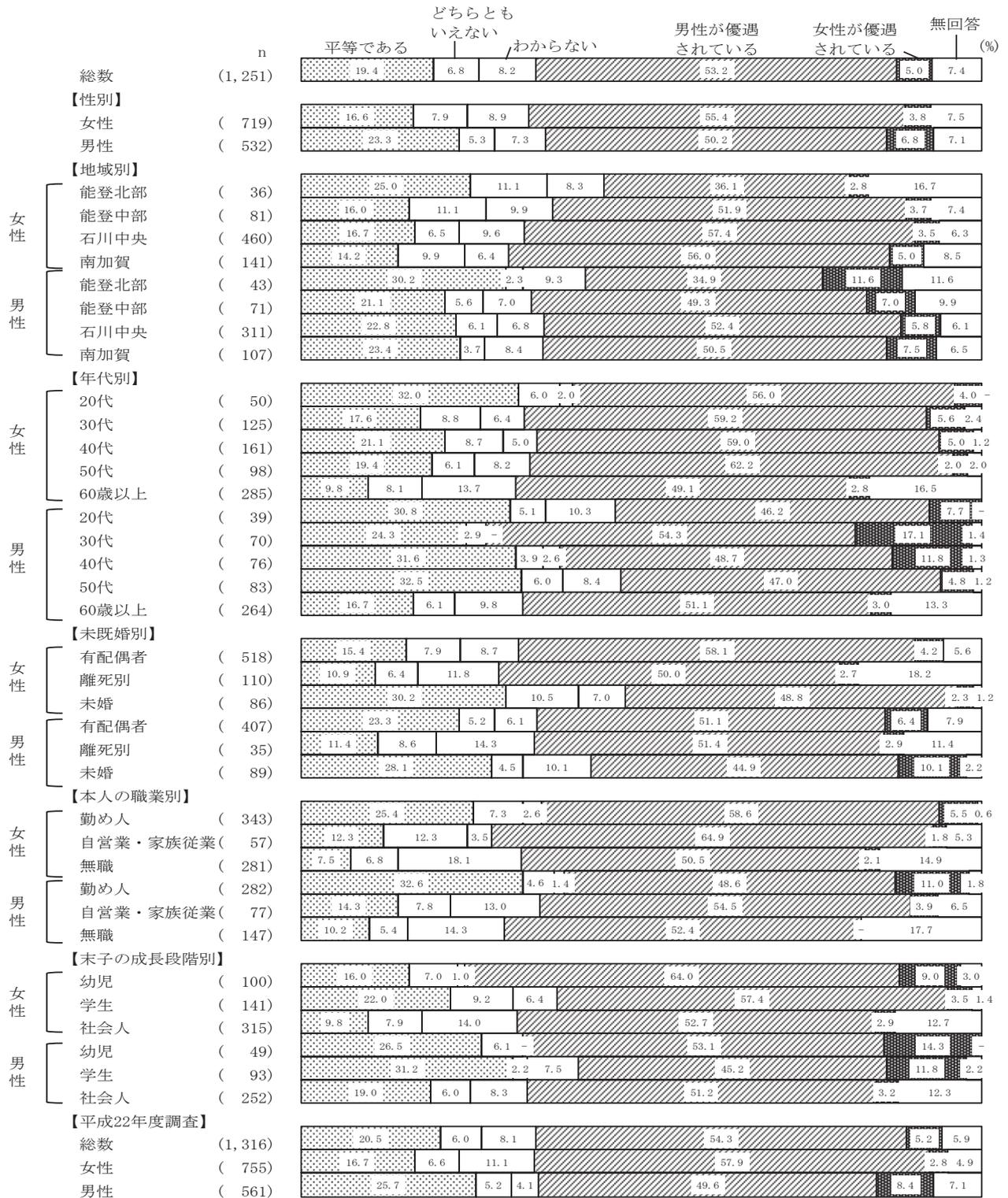
【平成22年度調査との比較】

女性では「平等である」は0.1ポイント、『男性が優遇されている』が2.5ポイント減少した。

男性では「平等である」が2.4ポイント、『男性が優遇されている』が0.6ポイント減少した。

図1-3 男女平等についての現在の状況 (b) 職場の中では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成22年度調査結果)



男女平等についての現在の状況

(c) 地域活動の中では

【性別】

「平等である」は男性の方が13.9ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が8.8ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は石川中央（23.9%）で最も多く、『男性が優遇されている』は、南加賀（51.8%）が最も多く、半数を超えている。

男性では、「平等である」が、石川中央（38.6%）が最も多く、『男性が優遇されている』は能登中部（43.7%）が最も多くなっている。

【年代別】

女性では、「平等である」が20代（38.0%）で最も多く、60歳以上（16.5%）が最も少なく、年代が高くなるにつれて減少する傾向にある。『男性が優遇されている』は50代（61.2%）で最も多く6割を超えている。

男性では、「平等である」が20代（64.1%）で6割を超えている。『男性が優遇されている』は60歳以上（42.4%）が最も多い。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚（26.7%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（48.3%）が最も多くなった。

男性では、「平等である」が未婚（51.7%）で半数超え最も多く、『男性が優遇されている』は離死別（40.0%）が最も多くなった。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」が勤め人（24.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』でも勤め人（48.7%）が最も多くなった。

男性では、「平等である」が勤め人（40.8%）で最も多く、『男性が優遇されている』は自営業・家事従業（48.1%）が最も多くなった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が社会人の子がいる人（16.8%）で最も少なく、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（50.4%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（43.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（41.7%）で最も多くなっている。

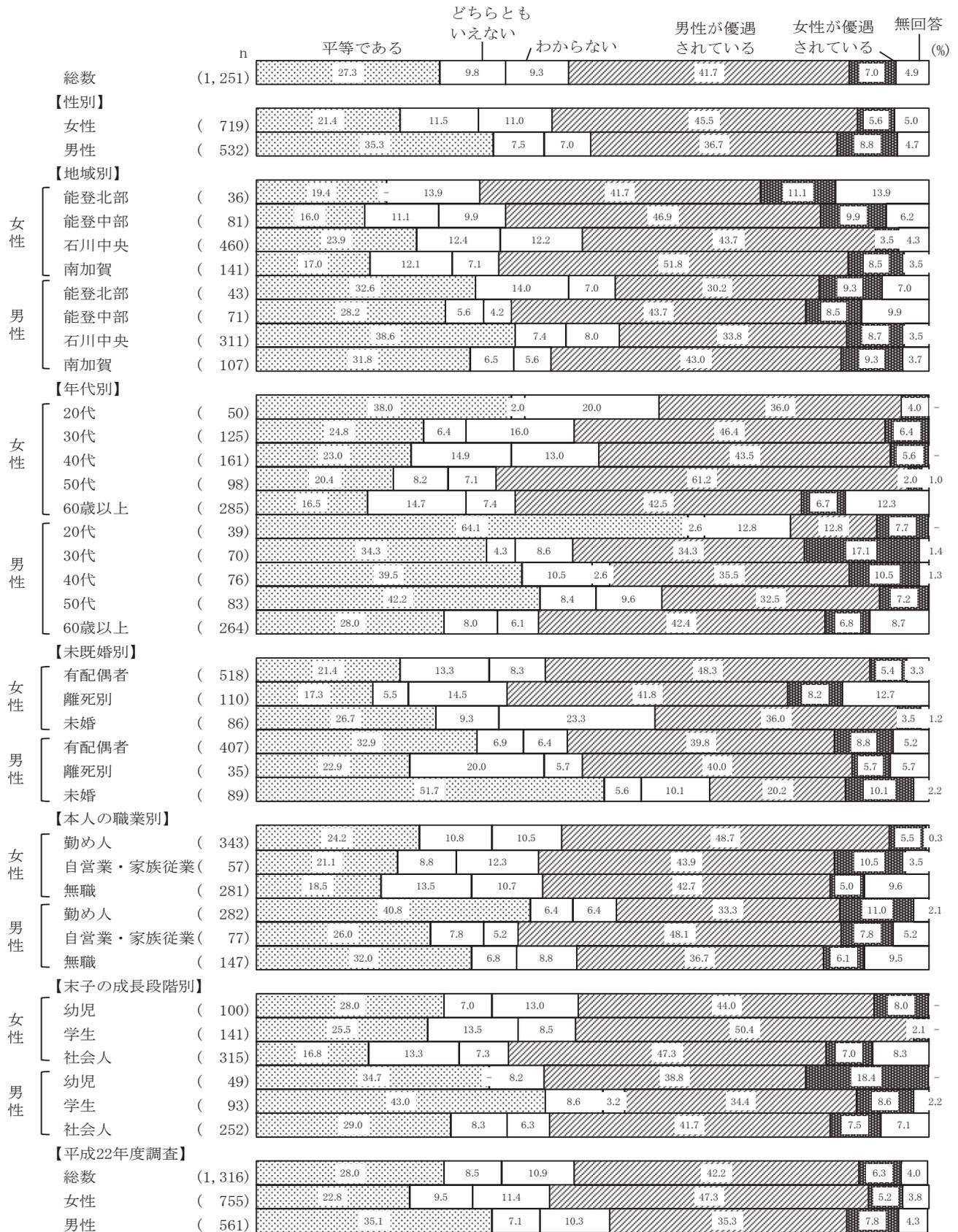
【平成22年度調査との比較】

女性では、「平等である」が1.4ポイント、『男性が優遇されている』が1.8ポイント減少している。

男性では、「平等である」が0.2ポイント、『男性が優遇されている』が1.4ポイント増加している。

図1-4 男女平等についての現在の状況 (c) 地域活動の中では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成22年度調査結果)



男女平等についての現在の状況

(d) 学校教育の場では

【性別】

「平等である」は男性の方が9.7ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は石川中央（45.4%）で最も多く、能登北部（38.9%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、南加賀（18.4%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」が、能登中部（62.0%）で最も多く、能登北部（46.5%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は能登中部（5.6%）が最も少なくなっている。

【年代別】

女性では、「平等である」が20代（60.0%）で最も多く、60歳以上（34.0%）で最も少なくなっている。『男性が優遇されている』は50代（23.5%）で最も多い。

男性では、「平等である」が20代（74.4%）で7割を超え最も多い。『男性が優遇されている』は、30代（15.7%）で最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」は離死別（27.3%）で最も少なくなっているが、有配偶者（47.7%）、未婚（47.7%）は4割を超えている。『男性が優遇されている』は有配偶者（18.3%）で最も多くなっている。

男性でも、「平等である」は離死別（34.3%）で最も少なくなっているが、有配偶者（54.1%）、未婚（61.8%）は半数を超えている。『男性が優遇されている』は、離死別（20.0%）で最も多くなっている。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」が勤め人（49.9%）で最も多く、『男性が優遇されている』は自営業・家族従業（22.8%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が勤め人（57.4%）自営業・家族従業（57.1%）が5割を超えており、『男性が優遇されている』は、自営業・家族従業（13.0%）で最も多くなった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」は社会人の子がいる人（37.8%）で最も少なくなった。『男性が優遇されている』は、社会人の子がいる人（20.6%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（66.7%）で多くなった。『男性が優遇されている』は、幼児のいる人（16.3%）で最も多くなった。

【平成22年度調査との比較】

女性では、「平等である」は0.2ポイント、『男性が優遇されている』が1.7ポイント減少した。男性では、「平等である」は1.2ポイント減少し、『男性が優遇されている』が0.4ポイント増加した。

男女平等についての現在の状況

(e) 政治の場では

【性別】

「平等である」は男性の方が8.7ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が11.1ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」が南加賀(7.1%)で最も多く、『男性が優遇されている』が能登中部(77.8%)と石川中央(77.4%)で7割を超え、南加賀(69.5%)と能登北部(61.1%)でも6割を超えている。

男性では、「平等である」が、能登中部(22.5%)で最も多く、『男性が優遇されている』は能登中部(49.3%)で最も少ない。南加賀(69.2%)、石川中央(65.6%)、能登北部(62.8%)では6割を超えている。

【年代別】

女性では、「平等である」がいずれの年代でも1割以下となっている。『男性が優遇されている』は30代(87.2%)、50代(84.7%)、40代(84.5%)で8割を超えている。

男性では、「平等である」が30代(8.6%)で最も少なく、40代(18.4%)で最も多くなった。『男性が優遇されている』は20代(59.0%)で最も少ない。

【未既婚別】

女性では、「平等である」はいずれの層でも1割未満となっている。『男性が優遇されている』は有配偶者(79.3%)で最も多くなっている。

男性では、「平等である」は離死別(8.6%)で最も少なく、『男性が優遇されている』は、離死別(65.7%)で最も多くなっている。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」はいずれの層でも1割未満となっている。『男性が優遇されている』は勤め人(82.8%)で最も多くなった。

男性では、「平等である」は無職(16.3%)で最も多く、『男性が優遇されている』は自営業・家族従業(72.7%)で最も多くなった。

【未子の成長段階別】

女性では、「平等である」はいずれの層でも1割未満となっている。『男性が優遇されている』は幼児のいる人(89.0%)と学生の子がいる人(83.0%)で8割を超えている。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人(20.4%)で最も多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人(66.7%)で最も多くなっている。

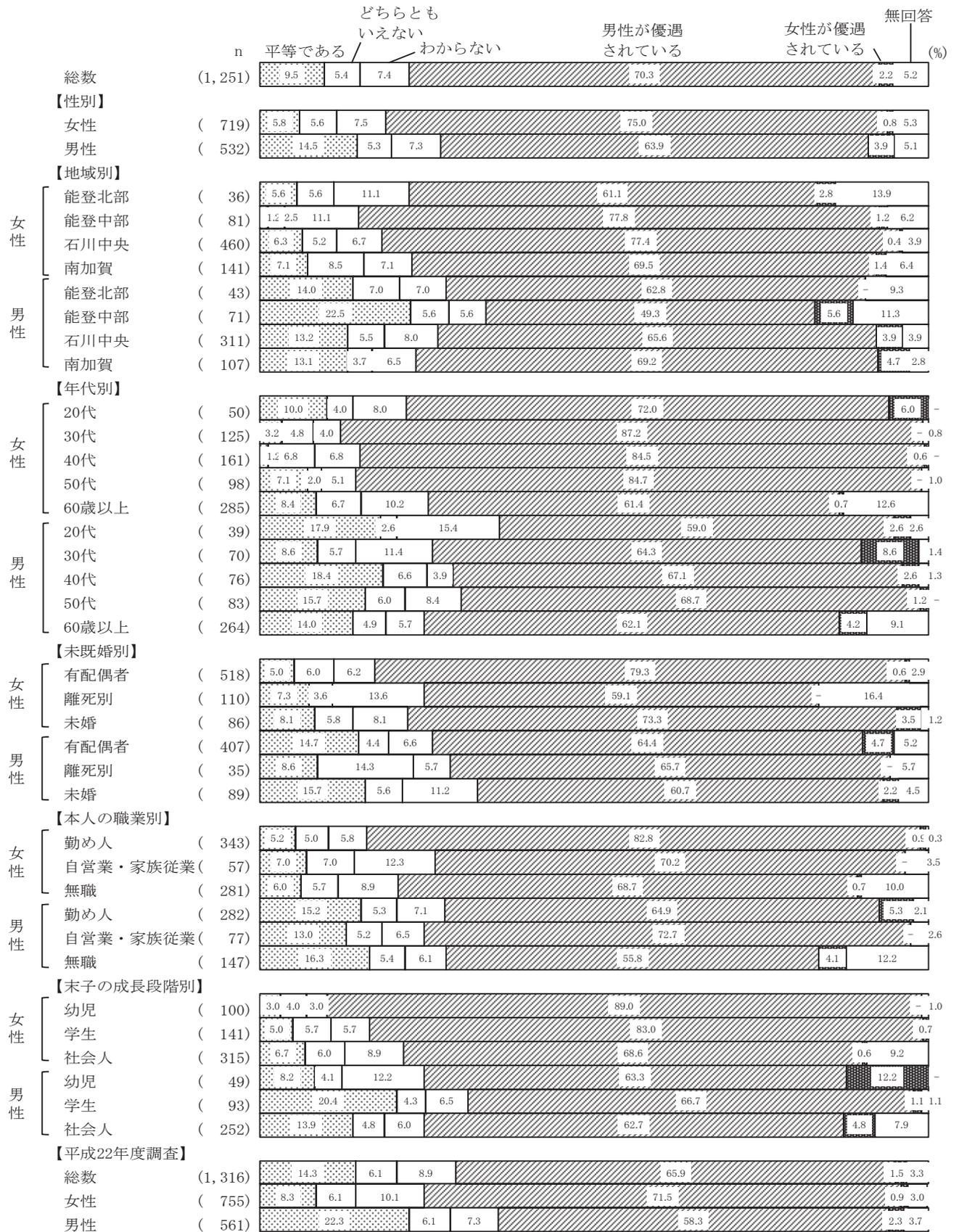
【平成22年度調査との比較】

女性では、「平等である」は2.5ポイント減少し、『男性が優遇されている』が3.5ポイント増加。

男性では、「平等である」は7.8ポイント減少し、『男性が優遇されている』が5.6ポイント増加した。

図1-6 男女平等についての現在の状況 (e) 政治の場では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成22年度調査結果)



男女平等についての現在の状況

(f) 法律や制度の上では

【性別】

「平等である」は男性の方が18.7ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が15.8ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は石川中央（23.3%）で最も多く、『男性が優遇されている』が能登北部（38.9%）で最も少ない。

男性では、「平等である」が、能登中部（47.9%）で最も多く、石川中央（37.9%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は石川中央（33.4%）で最も多くなった。

【年代別】

女性では、「平等である」が40代（18.0%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は60歳代以上（36.8%）で最も少なくなった。

男性では、「平等である」が20代（46.2%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は20代（15.4%）で最も少ない。

【未既婚別】

女性では、「平等である」は有配偶者（23.6%）で最も多い。『男性が優遇されている』は離死別（32.7%）で最も少ない。

男性では、「平等である」は有配偶者（42.8%）で最も多い。『男性が優遇されている』は離死別（31.4%）で最も多い。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」はいずれも層においても2割台の数値となった。『男性が優遇されている』は勤め人（50.7%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」はいずれも層においても4割台の数値となった。『男性が優遇されている』はいずれの層においても2割台の数値となった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」は社会人の子がいる人（24.1%）で最も多く、『男性が優遇されている』は幼児のいる人（51.0%）と学生の子がいる人（50.4%）で5割を超えた。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（45.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（32.3%）が最も多い。

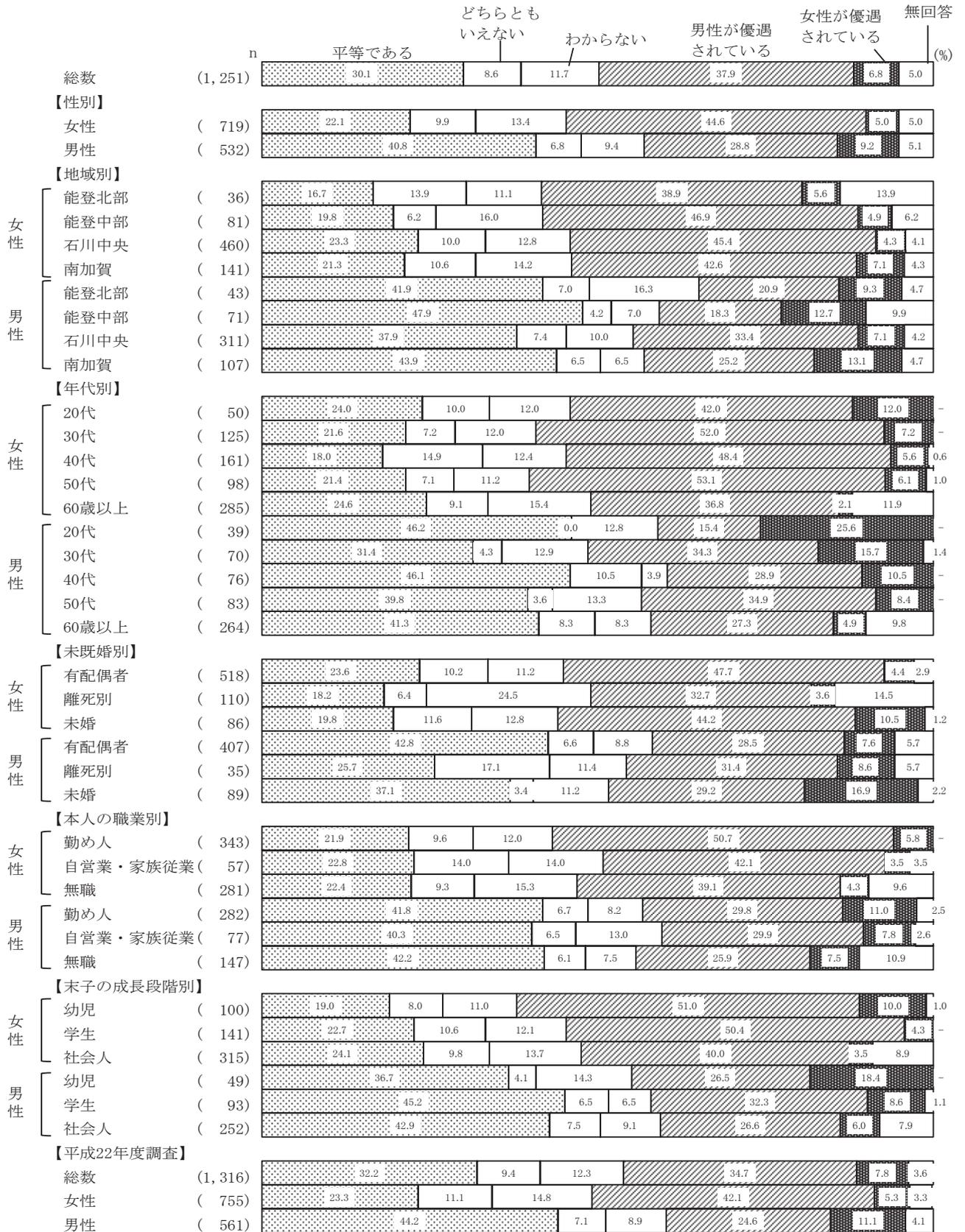
【平成22年度調査との比較】

女性では、「平等である」は1.2ポイント減少し、『男性が優遇されている』が2.5ポイント増加。

男性では、「平等である」は3.4ポイント減少し、『男性が優遇されている』が4.2ポイント増加した。

図1-7 男女平等についての現在の状況 (f) 法律や制度の上では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成22年度調査結果)



男女平等についての現在の状況

(g) 社会全体では

【性別】

「平等である」は男性の方が6.5ポイント多く、『男性が優遇されている』は女性の方が7.6ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は能登中部（12.3%）で最も多く、『男性が優遇されている』はいずれの地域でも6割を超えた。

男性では、「平等である」が石川中央（16.7%）で最も多く、『男性が優遇されている』は石川中央（61.7%）と南加賀（61.7%）で6割を超えた。

【年代別】

女性では、「平等である」が20代（18.0%）で最も多い。『男性が優遇されている』は50代（80.6%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が20代（25.6%）で最も多い。『男性が優遇されている』は50代（67.5%）が最も多くなった。

【未既婚別】

女性では、「平等である」は未婚（10.5%）で最も多い。『男性が優遇されている』は有配偶者（69.9%）と未婚（66.3%）で6割を超えている。

男性では、「平等である」は離死別（8.6%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は未婚（47.2%）で最も少なくなった。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」は無職（6.4%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は勤め人（72.9%）が最も多く7割を超えた。

男性では、「平等である」は無職（14.3%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は勤め人（60.6%）が最も多かった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」はいずれも層においても1割未満となっている。『男性が優遇されている』は幼児のいる人（80.0%）で8割を超えた。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（20.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（62.4%）で最も多くなった。

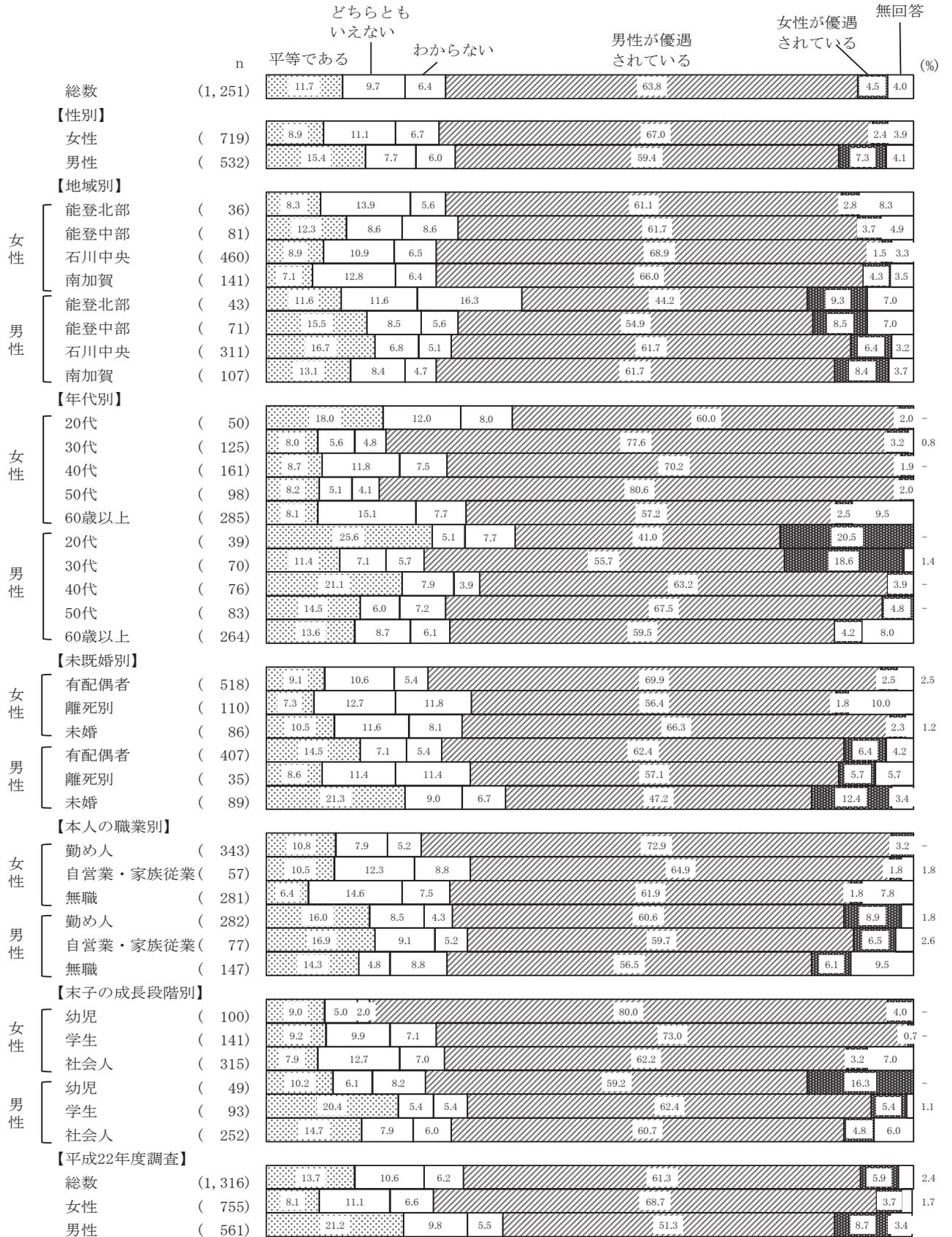
【平成22年度調査との比較】

女性では、「平等である」は0.8ポイント増加し、『男性が優遇されている』は1.7ポイント減少した。

男性では、「平等である」は5.8ポイント減少し、『男性が優遇されている』が8.1ポイント増加した。

図1-8 男女平等についての現在の状況 (g) 社会全体では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成22年度調査結果)



【内閣府調査との比較】

内閣府が平成24年10月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果と傾向を比較する。(但し、内閣府調査は「調査員による個別面接聴取法」で実施していることや、質問文が異なること、設問項目で一致しないものがあること、回答選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「わからない」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」の6つであること等から厳密な比較はできない。)

全ての項目で「平等である」が総数、女性、男性ともに全国の方が比率が高い傾向にある。

図1-9 男女の地位の平等（内閣府調査との比較）

